

## 1. 総 括

今年度も新型コロナウイルスの感染症対策を行いながら、自閉症スペクトラムの方々が見通しをもって自立した活動ができるよう支援するAチームと、主に知的障害の方々が楽しみの幅を広げたりやりがいをもって通所できるよう支援するBチームに分けての活動を行ってきた。

緊急事態宣言中でも1日も休むことなく開所を続け、日課も短縮せず利用者さんの日常を保証してきた。また感染状況を見極めながら余暇活動も自粛することなく取り組んだ。要望が多かった「お肉が食べたい！」という外食の希望や県内の外出活動に取り組んできた。また、クラブ活動も引き続き行ってきた。山クラブは毎月実施している通常の近隣のコースに加え、1日かけての遠征活動も行った。創作クラブも緊急事態宣言やまん延防止等措置期間は感染症予防対策の一環で外部の講師にはお休みをしてもらったが、創作クラブ自体は休みなく開催し、作品もたくさん出来上がり作品展にも応募することができた。さらには、創作クラブの活動を知り地域の新聞店さんとアプリアイコンを一緒に作成するワークショップも行った。新しくできたつながりを絶やさないような連携を続けていきたい。また、生活体験の一環としてインスタントコーヒーを自分で入れて飲むというコーヒータイムを週1回設けた。その日を楽しみに待ちわびる利用者さんが多くみられた。今後もこのような取り組みを増やし「たのしく・たくましく」を広げていきたいと思う。

「はたらく」取り組みとしては、栃木県内の複数の事業所と連携をして企業のカレンダー封入作業に取り組んだ。1つの事業所では請け負えない数量の作業でも複数の事業で協力すればできるんだ！ということを実感できた取り組みであった。

利用者数に関しては、年度途中で1名の方が退所したが5月に1名・7月にも1名新しく仲間を迎え入れることができた。また、職員は10月1名・12月1名退職。11月には新しく1名入社していただいた。より良い支援のためには、人材の確保がとても重要であることが改めて痛感する1年だった。

昨年度より実施している事例検討会も継続した。そのことにより日々の支援の振り返りを行う機会を作れた。これからもチーム支援がスムーズにできるよう風通しのよい関係を作っていきたい。

また、実習生も3人迎えることができ、1名が来年度の利用につながった。今後も特別支援学校との繋がりを保ちながら情報の共有を図っていきたい。

## 2. 利用者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約者数	11	10	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	140
退所者数	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
稼働日数	21	21	22	21	20	20	21	20	21	21	18	22	248
延利用者数	189	172	203	204	189	200	215	197	203	195	174	214	2,355
1日平均利用者数	9	8.2	9.2	9.7	9.5	10	10	9.9	9.7	9.3	9.7	9.7	9.496

※主な欠席理由…体調不良、精神不安定、家事都合、他事業所と併用利用

利用者障害支援区分 (令和4年3月現在)

区分3	区分4	区分5	区分6
0人	4人	2人	6人

※平均区分 5.2

## 3. 担当職員 (直接処遇職員 6名)

サービス管理責任者：青木

看護職員：板鼻

生活支援員：後藤、吉田、富澤、宇賀神

運 転 手：宇賀神勝

## 4. 年間支援実施内容

・日課 Bチーム

9:30 受け入れ・検温

9:50 朝の会・ラジオ体操・掃除

10:15 お茶

10:30 午前の活動

ATM 清掃・散歩・レクリエーションなど

～不定期：ゼブラ納品ドライブ～

12:00 昼食・はみがき

13:00 午後の活動・検温

創作・下請け・クリーンセンター

(15:00 ～毎週火曜日：コーヒータイム～ )

15:15 お茶

15:30 帰りの会

16:00 送迎

※Aチームは、個別のスケジュールを組み立てパターン化しないよう毎日スケジュールを変更した。また、スケジュールを課題、掃除、運動の時間に分け、個別活動も個別支援計画に基づき見直しを行った。

- 創作クラブ（第2、第4金曜）
- やまくらぶ（第2、第4木曜）
- 自主製品・下請け作業（わんこ・ペン箱詰め・ATM 清掃）
- 係活動（日直、お茶運び、コップ運び、ラジオ体操、挨拶係）
- レクリエーション（黒ひげ、ジェンガ、パズルなど）
- 個別対応（足湯、ドライブ、自販機買い物、相談支援）
- 余暇活動  
4月 だいやがわ公園  
5月 ワークショップ Tシャツづくり  
6月 ダック運動会（TKC いちごアリーナ）  
7月 ブルーベリー狩り  
8月 夏祭り  
10月 とちのきファミリーランド  
11月 やまくらぶ（太平山）、外食活動（ブルーステーキ）  
12月 クリスマス会  
1月 川上澄生美術館鑑賞、  
2月 節分豆まき  
3月 ショッピング（福田屋）  
その他、毎月工賃支給日の買物を実施した。

## 5. 成果と課題

### （1）日中活動支援

#### 日 課

- 成果
- 予定の確認を行うことで何をして過ごすのか見通しが持てている。
  - 自分でできることの体験で始めたコーヒータイムが毎週火曜日の午後3時に定着し楽しみの時間となった。
  - Aチームでは、変化に合わせてその都度スケジュールや活動内容、環境調整の見直しができる。
  - 笑顔も多く、楽しくすごせた。

- 課題
- Bチームでは、ワンパターンになりがちな活動の幅を広げたい。
  - また、集団を意識した取り組みを作っていきたい。
  - Aチームの自立課題の目的がはっきりとしていない。  
アセスメントを取り必要な自立課題を整理する。

- ・Aチームの休憩時間がほとんどタブレットになってしまっている。

#### 軽作業

【わんこのおやつ製造】 年間売上 123,975円

【ATM清掃作業】 作業工賃 225,821円/年（昨年度比120%）

成果 ・日常清掃・定期清掃以外の作業も受注取り組めた。

課題 ・利用者の取り組める作業工程を増やす。

【ゼブラ下請け作業】 作業工賃 26,200円/年（昨年度8割減）

課題 ・ウェルフェアからの間接的な受注のため受注量が不安定。

- ・ペンを紛失という事故が起きてしまった。材料の置き場所の統一を徹底した。

- ・個別の材料入れ、完成品入れ等道具の補充など作業環境を整えたい。

【カレンダー封入作業】 作業工賃 66,485円/年（新規）

成果 ・ネットヨタのカレンダー封入作業をチャレンジド・コミュニティさんを中心に県内6事業所で連携して取り組むことができた。

- ・ダックで請け負った部分も作業量が多かったためできないと判断した部分は、わたの実さんと連携し協力を得て納品することができた。

#### 余暇支援

- 成果
- ・近場の外出やダックで楽しむ余暇活動を中心に開催することができた。
  - ・ダック運動会は、フォレストアリーナを借りての試みだったが、とても盛り上がり楽しく参加できた。
  - ・外食体験は、要望の多かった肉を食べに、ブルーステーキに行き食事を楽しんだ。

- 課題
- ・土曜日開催の余暇活動は出席率が悪かった。
  - ・感染症対策での活動制限は今後もしばらくの間続くと思われる。

#### 創作クラブ

成果 ・月2回（第2、第4金曜）外部講師を迎えたクラブの実施。  
緊急事態宣言中は講師のお休みはあったが活動は継続した。

- ・ワークショップの開催

5月：粘土作品作り・Tシャツ作り

10月：ツムクルアイコン作り

1月：オカリナ絵付け

- ・作品展への応募ができた。

きょうされんグッズコンクール ～落選～

日本財団 DIVERSITY ～落選～

栃木県障害者芸術展「Viewing展」～入選～

(岸さん、金田さん、田中さん、吉岡さん、渡邊さん、神戸さん)

・活動が認められ栃木コープから再度助成金をもらうことができた。

- 課題
- ・作品の二次利用に関する工賃の規定を作る。
  - ・まだまだ創作意欲を引き出すかわりや、やり取りが必要。
  - ・地域の方々や他事業所とワークショップを介して交流を図りたい。

やまくらぶ (廣田さん、吉岡さん、渡邊さん、平野さん、田中さん、金田さん)

肥満・運動不足解消すること、また自然の中で心安らく時間を感じ取ることを目的に不定期ではあったが活動を開始した。

成果

- ・少しずつではあるが運動不足解消になり、健康、体力の維持につなげることができた。

- ・安全にみんなで達成感を味わうことができた。

- 課題
- ・天候の影響や思い付きの実施で計画性がなかった。
  - ・肥満対策も目的の一つとしてあるが、減量にはつながっていない。
  - ・職員体制によって中止になることもあった。

## (2) 生活支援

生活体験 (トイレ掃除、買い物、窓拭き、裁縫、洗濯、コーヒーの日など)

成果

- ・毎週火曜日午後3時からをコーヒーの日とし、自分で好きな飲み物 (インスタントの粉末) をえらんで入れる時間をつくった。楽しみにしている方も多く、モチベーションを上げる活動になっている。

今後も電子レンジで作れるカップケーキやピザトーストなど簡単な調理体験等楽しみを感じるような生活体験を考えていきたい。

- 課題
- ・工賃買い物では要求をうまく引き出せず同じような買い物に終わってしまった。
  - ・具体的な生活につながる体験を増やしたい。(カップラーメンを自分で作る、サンドイッチを作る等)。

健康管理 (体温測定、血圧測定、体重測定、口腔ケア、服薬支援、定期健康診断、インフルエンザ予防接種、感染症予防の啓発など)

成果

- ・手洗いうがいも継続できていて、散歩などで体も動かし、健康を維持できている。

- ・大きな病気や怪我などもなく、欠席者も少なかった。

- ・感染症対策見直し相談会に参加した。

- ・バイタルチェック表改正を行った。

- ・職員の健康診断結果に基づく医師からの意見聴取をおこなった。

- 課題
- ・嘔吐物処理セットのハイターが変色していたため定期的な点検が必要。
  - ・感染予防対策品の保管場所の確定。

- ・途中マスクをはずしてしまう人も送迎時、外出時は着用を促す。

## 6. 職員会議、支援会議

### (1) 職員会議

毎月1回開催し、管理・運営会議の決定、方針に基づき、事業所全般の業務執行に関する審議・決定を行ってきた。

4/10(土) 余暇計画、アンケートの項目協議など

5/8(土) 余暇総括、ワークショップの計画、山クラブについてなど

6/12(土) ワークショップ総括、スポーツ大会計画など

7/10(土) スポーツ大会総括、土曜開所日について、夏祭り計画など

8/21(土) 夏祭り計画など

9/11(土) 余暇計画、ヒヤリハットなど

10/9(土) 余暇総括、余暇計画など

11/13(土) 余暇総括、研修報告、DVD視聴研修など

12/11(土) 余暇総括、研修報告など

1/8(土) 研修報告、送迎時間の変更など

2/13(土) など

3/13(土) など

### (2) 支援会議

サービス等利用計画に基づいて家族の方や本人の情報を共有しながら計画の見直しを行い、支援会議にて個別支援計画の策定を行った。

毎月個々人の報告を行い個別支援計画をもとに振り替えるよう意識した。

ケース会議を通して、相談支援員や他事業所と情報の共有を行った。

また、縄岡好晴氏による縄岡セミナーを実施した。

課題としては、個別支援計画のさらに細かく見た新個別支援計画が導入を計画したができなかった。

### (3) 総括会議

2/5(土)、19(土) PM

#### 【協議事項】

- ・令和2年度 事業報告及び年度のまとめ

3/6(土)、13(土) PM

#### 【協議事項】

- ・令和3年度 事業計画及び年度方針

## 7. 職員研修

- 5月17日 社会福祉施設新任職員研修会(前期) (吉田)
- 6月 2日 障害児通所支援事業所等従事者研修 (板鼻)
- 7月17日 人権と優生思想 (板鼻)
- 7月29日 ガイドヘルパースキルアップ研修会① (板鼻)
- 8月7～8日 障害者施設職員研修会～新任職員コース (吉田)
- 9月10日 強度行動障害支援者養成研修(実践) (青木)
- 10月24日 自閉症スペクトラム児への支援 (青木)
- 10月23日～24日 意思決定支援と虐待防止に関する研修会 (板鼻)
- 11月19日 サービス管理責任者更新研修 (青木)
- 11月29日 自立課題のアセスメントと実際 (成田・板鼻・後藤・吉田)
- 12月 3日 社会福祉施設新任職員研修会(後期) (吉田)
- 12月 8日 令和3年度5法人ジョイントセミナー (青木)
- 12月 9日 ガイドヘルパースキルアップ研修会② (板鼻)
- 12月13日 標準的支援とは (成田・青木・板鼻・後藤・吉田)
- 12月16日 障害者アートの著作権と権利擁護 (青木)
- 12月19日 からだは食べ物からできている (成田・青木)
- 12月21日 メンタルヘルス推進者研修 (板鼻)
- 1月 8日 KTU 発達障害者支援セミナー～BWAPⅡ～ (正規職員)
- 1月18日 感染症対策見直し合同相談会 (板鼻)
- 2月17日 ガイドヘルパースキルアップ研修会③ (板鼻)
- 3月21日 CCV 全職員研修「虐待防止について」

その他

大妻女子大学 人間関係学部 助教 縄岡好晴氏による研修 6/12、8/21、1/8

Lean On Me 動画配信研修

- ・コロナ禍 Zoom を活用した研修や動画配信研修等は逆に参加しやすく、またリーオンミーは期日関係なく開いた時間に気軽に視聴できてよかった。

## 8. 安全・安心

### (1) 防災管理

消火、通報、避難誘導の訓練を実施した。

① 5月25日(火) 13時30分～

② 11月25日(木) 13時30分～

5月の訓練は消防職員を派遣していただき、水消火器訓練やミニ消防車「けすぞうくん」による放水体験、乗車体験も行った。

災害時における防災マップ、関係情報一覧表の掲示をした。

※課題としては、訓練時に「安全な場所に身を寄せ待機」など細かいところも意識できるとよかった。また、備蓄品（保存水、安心米、簡易トイレなど）を一定程度購入してきたがリスト化ができていない。

## （２）危機管理

事故・ヒヤリハット

- ・利用者 6件 （転倒、建物損壊など）
- ・職員 1件 （下請け作業の材料紛失）

毎月事故・ヒヤリハットを職員会議で報告・共有し、その後の対応を話し合った。

## （３）苦情解決

受付 0件

ちょっとした苦情は言いにくいし、拾いにくい。どんな小さなことでも話しやすい関係づくり必要。課題として残る。

## （４）虐待防止

毎月の職員会議で虐待と感じたことを話し合った。

会議で話し合ったことで虐待を意識し、虐待防止への感心を高めることができた。（本人の意思に沿わないこと、車イスのベルトの強弱、車イスのテーブルの使用、言葉づかいなど）

家庭からの要望により安全確保のために車いすに乗っていただいている方には、身体拘束に関する説明書の記入をしてもらった。

法人の虐待防止委員会に参加。全職員に対しセルフチェックシートの実施、権利擁護や身体拘束などの勉強会を行った。

## 9. 送迎の実施

- ・1年間事故なく安全に送迎を行うことができた。
- ・坂下コース、坂上コース、南コースの3コース運行  
送迎時には窓を開け換気をしながら走行し、各車両に空間除菌剤を設置した。  
車両は使用する度にアルコール消毒を行った。
- ・車両の定期的な拭き上げ、洗車を行ったことできれいな状態を保てた。

## 10. 地域・関係機関との連携

### （１）広報・宣伝

広報紙の発行、HPの更新管理

- ・毎月発行のダック通信により日中一時と生活介護の様子を伝えることができた。
- ・フェイスブックでの広報活動を行った。（余暇活動、創作クラブ、日常の様子などおこなった。1つの原稿に「いいね」は10人前後あった。）
- ・法人の会報誌CCVだよりは広報委員会を設置したことで発行回数が増えた。
- ・課題としては、CCVだよりでの記事がマンネリ化している。
- ・HPの更新は手を付けにくい。も課題として挙げられる。

#### （2）家族支援

- ・個々の家族との面談の機会をもった。
- ・連絡帳のやり取りや送迎時など家族とのコミュニケーションを持ち、家族からの要望に応じてきた。
- ・家族からの急な送迎の変更などに対して柔軟な対応を行った。
- ・会費の取りまとめや文書の配布等家族会に協力した。
- ・コロナ禍家族会と職員との交流が行えなかった。

#### （3）特別支援学校、学級実習生の受け入れ

今年度の3名の実習生の受入を行った。その中1名利用につながった。

#### （4）ボランティアの受け入れ

社協を通じて年間の余暇活動を伝え、毎月の余暇活動に合わせて募集を行った。

- ・余暇活動クリスマス会にサンタさんの登場にみんな嬉しそうだった。

日常の活動にボランティアさんの話しがあったが、コロナウィルス感染予防のため見合わせになっている。

継続してボランティアをお願いするためボランティアさんに年賀状を送った。

#### （5）関係機関

関係者会議（ケース検討会議）を定期開催することで課題と目標の共有ができた。相談支援事業所やグループホームなど本人を取り巻く環境で関わっている担当者や利用者との基本情報の聞き取り、状態把握、サービス等利用計画について確認を行った。

特別支援学校の進路指導の先生方とつながることができたことで実習の問い合わせが増えた。

## 11. その他

ダックの施設老朽化のため移転に向けての1級建築士の渡辺氏、地主の斎藤氏を含めたプロジェクトチームを立ち上げ、日本財団の「みらいの福祉施設建築プロジェクト2021」に応募した。このプロジェクトは、社会福祉施設が地域福祉の拠点となり、地域社会に開かれた魅力ある場所として認知され、まちづくりの核となるよう事業実施団体と設計者の協働によ

る建築デザイン提案を含む、建築関連助成を行うというものであり、第1次審査は通過したものの最終審査では選ばれず助成を受けることができなかった。

## 1. 総括

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響が続く1年であった。

その影響で1年間お昼から長時間利用をする方もいた。しかし、利用する時間が増えたことで散歩や畑作業で体を動かす機会等様々な活動をたくさん取り組むことができた。

ペン作業やカレンダー封入作業、わんこのおやつ型抜き作業など生活介護の作業を積極的に手伝う姿も見られた。

また、生活介護の余暇活動と一緒に参加したり、様々な場面で楽しみが共有できた1年となった。

職員が1名減となり生活介護の職員の応援を受けながらの厳しい職員体制であった。早急に改善が求められる。

## 2. 年間利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約者数	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120
退所者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
稼働日数	21	19	22	20	19	20	21	20	21	19	18	21	241
延利用者数	169	153	182	153	156	160	166	164	166	139	117	154	1879
1日平均利用者数	8.0	8.1	8.3	7.7	8.2	8.0	7.9	8.2	7.9	7.3	6.5	7.3	7.8

※主な欠席理由…家庭の都合

## 3. 担当職員

山本・池田

## 4. 年間支援実施内容

障利用者のニーズに合わせた作業を行うとともに余暇を充実させるための活動と支援を行った。

具体的な支援内容は、送迎・おやつ・散歩・DVD鑑賞・野菜作り・ゲーム・学習などくつろいだ時間を過ごすことができた。

開所時間 平日 12:00～17:45

## 5. 成果と課題

### 成果

- 仕事の不安や困りごとなど傾聴を行った。
- 定期的にフロアー内の掃除など快適な生活環境を提供した。
- おやつ作りや準備の手伝い等楽しみの中で経験をつむ活動をした。
- 発語が困難な利用者には表情で汲み取る事が出来るように努力した。

### 課題

- 利用者を増やす日中一時支援のPR。
- 職員間の連絡や報告、相談の徹底など職員の職務・職責意識の高揚。
- 職員の専門性を高めるとともに、人権教育の充実、徹底。

## 6. 職員研修、職員会議、健康管理、衛生管理等実施内容

### 職員研修

10/10 てんかん協会「小児てんかんについて」

12/26 てんかん協会「家族・教員・支援者のための基礎知識」

その他大妻女子大学 人間関係学部 助教 縄岡好晴氏による研修

株式会社 Lean on Me によるeラーニング

より良い支援の情報を得ることができ、職員のスキルアップにつながった。

### 職員会議

生活介護と合同で毎月1回開催した。また、その会議報告書を参加しなかった職員にも供覧した。

日誌を供覧し日々の状況を共有した。

利用者が困っている時など気づいた時にはその都度話をして情報を共有した。

### 健康管理

手洗い、うがいの慣行、消毒、体温チェック、こまめな水分補給など。

万歩計アプリを使って散歩を行うことで目標をもって取り組めた。また気分転換にもなり、コロナウィルスの影響で日々のリズムが崩れた利用者さんのストレス解消にもなった。

## 7. その他（建物等修理・修繕の実施、設備・備品等の整備内容等）

今年度も継続して多目的室の壁面を毎月季節感のある構図で飾ってきた。